

宇都宮大 学生ら学内に設置

ベンチは隙間を空けて組む「透かし積み」。

がれきのため角がとれて丸く、大きさにばらつきがあるのを「味」として生かした。

宇都宮大工学部のキンパーと昨年六月からキャンパス。大谷石を積 企画を始め、三月末にみ上げて作った四つの 完成した。

ベンチで、学生らがく 震災で発生したがれつろぐ。大谷石で作 きは栃木県内で約十八 万ト。半分近くが石蔵 イメージした三角屋根 た。

街づくりのモデルに なるよう、石蔵の形を イメージした三角屋根 も設置し、街に溶け込 むデザインにした。

「自然とコミュニケーションが生まれるよ うな場所になった」。 何か活用できないか 設置に携わった院生の と考えた」と安森さ 藤田聖也さん(三)と佐 藤秀人さん(三)が顔を 使用した大谷石は同 県芳賀町から無償で譲 だ増えそう。「独特の 温かみがある大谷石は 景観によく、人の居場 所にもなる」と有効活 用を訴えている。

震災で損壊 特産建材再活用
がれき大谷石 東屋に

東日本大震災で損壊した石蔵や塀などに使われていた宇都宮市特産の建材「大谷石」を使い、キャンパスの憩いの場に。宇都宮大の学生たちが、がれきの山から見えそうな石を選び、一息できる東屋にしつらえた。がれき再活用のモデルケースとなりそうだ。(内田淳二)



大谷石を再利用した東屋。古い石も多く、つるはして掘り出した跡が残る石も＝宇都宮市で

大谷石 宇都宮市北 西部・大谷町で産出さ れる、火山由来の凝灰 岩。加工しやすく耐火性に優れ る。米国の建築家フランク・ロ イド・ライトが設計した東京の 旧帝国ホテルでも使われた。建 築材の多様化で産出量は減って いるが、最近はやインテリアとし て利用が広がる。

